

<b>1 学校教育目標</b> 確かな学力、豊かな心、健やかな体 (知・徳・体のバランスのとれた力をはぐくむ)	<b>2 本年度の重点目標</b> (1) きめ細やかな指導による児童一人一人の学力の更なる向上 ○新学習指導要領の理解と理念に基づいた指導法改善 ○知識・技能の確実な習得と思考力・判断力・表現力の育成 ○読書の奨励 (2) 人権・同和教育の推進 ○いじめの未然防止と多様性を尊重する教育 ○「特別の教科 道徳」の充実と連携 (3) 地域と連携した市民性を育む教育活動の充実 ○地域人材の活用、及び地域を学ぶ教育活動の推進 ○地域行事への参加や地域への貢献活動の推進 (4) 働きやすい職場環境づくり ○アサーションと同僚性を大事にした職員集団づくり ○教育内容における質の維持・向上と業務改善の両立
---	---

達成 A: ほぼ達成できた  
 B: 概ね達成できた  
 C: やや不十分である  
 D: 不十分である

重点目標を具体的に評価するための項目や指標を盛り込む

3 目標・評価						
① きめ細やかな指導による児童一人一人の学力の更なる向上						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
学校運営	○教職員の資質の向上	学びたくなる授業づくり	・児童へのアンケート調査「自分から進んで授業にのぞみましたか。」の割合を、4段階評価で3.0以上にします。 ・職員へのアンケート調査「子どもたちが学びたくなる授業づくりに努めていますか。」の割合を、4段階評価で3.4以上にします。	・研究授業等で、児童が学びたくなる授業について研究するとともに、少人数のよさを生かした個に応じた声かけやきめ細やかな指導を工夫する。 ・日々の授業において、児童が分かる授業や意欲的に取り組む授業を目指し、電子黒板を有効に活用する。 ・「授業づくりのステップ1, 2, 3」を活用して、日々の授業改善に努める。	A	・全教員が授業を公開し、実践を基に研究を進めることができた。 ・児童アンケート「自分から進んで～」の結果は3.6、職員アンケート「子どもたちが～」の結果は3.8だったので、目標は達成できた。電子黒板や授業づくりのステップ1, 2, 3の活用もできた。 ・課題は、児童が困る前にヒントを出したり、次の課題を与え続けたりして、児童の自己解決力を育む試行錯誤や発意が少人数学級であるがゆえに保障されにくいことである。
			・国語科及び算数科の基礎・基本の定着を図る。その上で、県調査の4教科の正答率を、少なくとも「おおむね達成」以上にします。 ・1～3年実施のCRTにおいて、全国平均以上にします。 ・マイライブラリーカードを全員が作成し、学年別に設定した目標冊数(1, 2年(3冊)、3, 4年(6冊)、5, 6年(9冊))を達成する。	・個に応じた机間指導の時間を設定する。 ・基礎・基本の定着を目指した家庭学習の習慣づけを図る。 ・児童が、自分の考えや思いを表現できるように、考える視点を与え全教科の授業で考えを伝え合うような取り組みを行う。 ・年に2回、読書推奨週間を設ける。マイライブラリーの達成度や読書冊数などを適宜、把握し、個別指導をする。	B	・個別の支援が早すぎたり丁寧すぎたりする傾向があり、児童が受け身になりやすい。 ・学期ごとに個人の読書目標を設定した達成度は1～4年は100%、5, 6年生は77%だった。 ・校時表の変更で、これまで通りの読書タイムの確保ができなくなった。全体指導だけでなく、個別に指導するための時間の確保が課題である。 ・マイライブラリーカードの記録の平均は、1, 2年35冊、3, 4年17冊、5, 6年4冊だった。1～4年は達成することができた。高学年の読書活動の充実、時間の確保と読書指導の両面から見直しが必要である。
教育活動	●学力の向上	個に応じた指導の徹底 読書活動の充実	・児童へのアンケート調査「毎日、家で勉強していますか。」の割合を、4段階評価で3.8以上にします。 ・保護者へのアンケート調査「お子さんが宿題や読書の習慣がつくよう努めていますか。」の割合を、4段階評価で3.0以上にします。	・各学年の目標時間を意識させ、家庭学習の取組に対する評価及び指導を継続して行う。 ・学習相談会や学習通信などで、目標時間や具体的な内容について説明し、協力をお願いする。 ・果敢な家庭学習の手引きを活用して、家庭訪問時に習慣化に向けての協力を依頼する。 ・学校からのお便り(図書など)で読書の大切さを伝えていく。	B	・児童アンケート「毎日、家で～」の結果が3.8、「学校や家で本をよんで～」の結果が3.2であった。保護者アンケート「お子さんは、本を読んでいますか。」の結果は2.7、「お子さんが毎週や毎月の読書はありますか。」の結果は、朝読書も充実し、図書室もいつでも利用できるように開館し、読書量は多い。家庭で読書や読書の習慣をつける努力を保護者にしてもらうことは難しく、数値目標を達成できなかった。
			・ゲームや携帯電話の調査結果を基に保護者に家庭での過ごし方について啓蒙を行い、協力を仰ぐ。 ・保護者に読書の大切さを知ってもらうために「マイライブラリー」図書日より、学校より、学級通信等を利用して啓蒙を行う。特に、今年度のような学校より、啓蒙につながる。来年度は、朝読書の時間が学級タイムになるので、各学年で1年間の通読をもって短時間で読書の時間を設定する。宿題は、これまで同様それぞれの学年にあった内容と量を出していく。保護者の協力は難しくても、児童本人に家庭学習の目的や必要性、効果を指導することにより、習慣づけたい。	・ゲームや携帯電話の調査結果を基に保護者に家庭での過ごし方について啓蒙を行い、協力を仰ぐ。 ・保護者に読書の大切さを知ってもらうために「マイライブラリー」図書日より、学校より、学級通信等を利用して啓蒙を行う。特に、今年度のような学校より、啓蒙につながる。来年度は、朝読書の時間が学級タイムになるので、各学年で1年間の通読をもって短時間で読書の時間を設定する。宿題は、これまで同様それぞれの学年にあった内容と量を出していく。保護者の協力は難しくても、児童本人に家庭学習の目的や必要性、効果を指導することにより、習慣づけたい。		

② 人権・同和教育の推進						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
教育活動	●心の教育	全教育活動における道徳教育、人権・同和教育、特別支援教育の実践	・なかよし人権教室は、支援教員が担当する3回(全校対象)だが、それ以外に下学年・高学年に分かれ、年8回実施する。また、その内容と関連させた道徳の授業を毎回実施する。 ・部落問題学習を全学年で、部落史学習を6年で行うことができるよう計画を立て、確実に実施する。 ・定期的な実施する『こころのアンケート』において、自分ががんばっていることやできているようになったことを記述する欄を設け、肯定的な記述ができる児童の割合を90%以上にします。	・「いのち」「なかよし」の視点で、全職員が分担して、なかよし人権教室を企画・実施する。 ・部落問題等を自己の問題として捉えさせるような教材の開発や指導の改善を図る。道徳の教科書で、人権学習として適しているものをチェックする。 ・肯定的な記述が十分にできなかった子どもについては、アンケート実施後に必ず声かけを行い、その子どもががんばりを認め、褒め、励ますようにする。	A	・なかよし人権教室は、先生方の教材研究のおかげで、充実した内容で計画通り実施できた。また、その内容に準じた道徳の授業を毎回実施し、なかよしノートに感想を記入できた。 ・町間研の道徳教材である部落問題学習は全学年で実施できた。5年生は、つむじ心令16月教育の日の授業参観で、6年の「解放令」11月授業参観で、T.T.での授業を実施することができた。 ・心のアンケートは実施できたが、提出は90%、自分の肯定感を高める記述の部分は、ほとんど子どもが頑張っていることを一つ短表記するのみだった。
			・児童へのアンケート調査「学校は楽しいですか」「学級・学校に友だちがいいますか」「悲しんでいるり悩んでいるりしている友だちがいいたら、声をかけましたか」の項目は、4段階で3.7以上にします。	・児童理解研修、『こころのアンケート』、Q-Uの結果を活用して、児童の心の状態をこまめに把握し、その情報を職員間で共有するとともに、必要に応じて適時・適切に対応をする。 ・Q-Uの結果分析は、講師招聘をして分析を行い、指導に活かす。	A	・児童へのアンケート調査は、4段階で3.7以上にはななかった。しかし、アンケートだけではよくわからない子ども同士のトラブル起こった。管理職も含めたチームで対応はできた。

③ 地域と連携した市民性を育む教育活動の充実						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
教育活動	○市民性を育む教育	地域人材の活用 地域を学ぶ学習の充実 地域行事への参加	・1, 2年… さつまいも作り 3年… そば作り 4年… 豆腐作り 5, 6年… もも作り 6年… 租税教室等 ・各学年とも、年に1回程度は、授業や学校行事に地域の人材を活用するようし、教育効果を高める。 ・職員へのアンケート調査「地域行事への参加やボランティアを子どもたちに呼びかけましたか」の割合を、4段階評価で4.0にする。	・人材リストを年度毎に作成(更新)し、見直しをもって計画的に地域人材を活用できるようにする。 ・地域行事への参加を呼びかけたり、地域のためにできることを考えさせたりして、町民の一員である自覚を促す指導を行う。	B	・各学年ともに、計画的に地域人材を活用した体験学習が実施できた。 ・職員アンケート「地域行事への参加やボランティアを子どもたちに呼びかけましたか」の結果が3.2だったので目標が達成できなかった。
			・年間50号を目安に「学校だより」を発行し、学校の教育活動や児童の学習の様子などを家庭や地域に発信する。 ・学校HPの更新回数や増やすとともに、学校HP閲覧を「学校だより」等で保護者等に呼びかけるなどして、各記事の閲覧回数が前年度を上回るようにする。	・日常的に学校の教育活動の情報収集に努めるとともに、学校行事の様子なども適時に「学校だより」で発信できるようにする。 ・学校HPのイベントギャラリーに週に3回程度は記事を投稿する。	A	・「学校だより」の発行は各学年のお便りとの差別化を図り、学校全体の取組を紹介するものに絞って目標の50以上の発行ができた。 ・特に学校関係員には個別に配布を行った。 ・学校HPについては、学校だよりQRコードを付けることで学校だよりイベントギャラリーの閲覧数の増加につなげることができた(学校だよりの最高閲覧数は190)。

④ 働きやすい職場環境づくり						
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)
学校運営	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	業務効率化の推進 多忙感解消	・各担当業務の情報共有を強化する。職員へのアンケート調査「共有フォルダを利用し、データの共有に努めたか」の割合を、4段階評価で3.5以上にします。 ・毎週金曜日を定時退勤日に設定し、徹底を図る。職員へのアンケート調査「管理職は、職員が定時に退勤できるよう働きかけを行ったか」の割合を、4段階評価で3.8以上にします。	・校務用サーバに共有フォルダを作成し、データの共有を行い、教材作成や学級事務等の効率的な業務遂行に努める。 ・管理職が、業務の進捗状況を適時尋ねると積極的に声かけを行い、金曜日における定時退勤を確実に実施できるようにする。	A	・職員アンケート「共有フォルダ～」の結果は3.7だったので、情報共有し、業務の効率化ができた。 ・職員アンケート「管理職は～」の結果は3.7だったので、多忙感の解消に努めることができた。

本年度の重点目標に含まれない共通評価項目							
領域	評価項目	評価の観点 (具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	達成度	成果と課題 (左記の理由)	
教育活動	●健康・体づくり	体力の向上	・教育活動全般を通じて、運動・スポーツを好み、めあてを持って体力向上に取り組む児童を育てる。 ・児童へのアンケート調査「持久走やなわとびをして、体力がついたと思いますか」の割合を、4段階評価で3.6以上にします。	・新体力テストの結果を受けて、体力向上に向けためあてを立てる。 ・健康タイムや業間の持久走タイム、大なわとびの練習に全校で取り組む。	A	・児童アンケート「持久走やなわとび～」の結果が3.6となり、目標数値を達成することができた。また、同調査の「休み時間は外で元気に遊び、丈夫なからだをつけていますか」のポイントも3.5以上となり、本校児童が日常的な体力づくりにとらぬでいる評価することができる。	
			基本的な生活習慣の定着 (歯と口の健康)	・自分の健康の保持・増進のために、自らの問題として考え、行動し習慣化するようになる。 ・児童へのアンケート調査「歯や口の健康」など、家で歯みがきできているか」の割合を、4段階評価で3.8以上にします。 ・歯磨きの減少及び歯と口の健康意識を向上させ、歯科受診の割合を90%以上にします。	・毎学期、基本的な生活習慣の定着についてのアンケートを実施し、保護者と連携しながら個に応じた指導を行う。 ・歯に関する指導を各学級で行い、歯に対する意識を高めさせる。また、受診勧告を含め保護者への呼び掛けを保健だより等で定期的に行う。	A	・生活習慣100点運動を実施し、保護者と連携したよりよい生活習慣の意識づけができた。 ・3学期に生活アンケートを実施し、状況を把握し来年度の課題をすることができた。 ・歯みがきは、4段階評価の結果3.9であった。 ・歯の治療率は100%。定期的に歯科受診をして歯の点検を受けている割合は81.2%という結果で、保護者の意識は年々上がっている。
			●志を高める教育	自らの夢や目標の実現に向けて努力する気持ちを高める教育活動の推進	・児童へのアンケート調査「夢や目標、めあてに向かってがんばる気持ちがあるか」の割合を、4段階評価で3.5以上にします。 ・児童へのアンケート調査「佐賀県や唐津市が好きですか」の割合を、4段階評価で3.5以上にし、且つ、好きな理由が言える割合を80%以上にします。	・道徳科や特別活動の時間において、夢や目標について考えさせる時間や機会を設定する。 ・「私たちの佐賀県」や唐津市発行の郷土学習資料を基にした授業を年間指導計画に位置付け、社会科における地域学習を充実させる。	A

**4 本年度のまとめ・次年度の取組**

○新学習指導要領の本格実施に向けて、「主体的、対話的で深い学び」の具現化を全教員による授業公開及び授業研究会で検証していくことができたことは大きな進歩である。本校の少人数授業は理解がゆっくりに子ども達には手厚くいねいだが、それがデメリットとなる場合もある。個別最適化の授業の在り方については、新学習指導要領の目指す理念とも一致する。学習課題と共にそれぞれの子どもの学びたい授業の構築を全職員の一歩ずつの学びで目指したい。＝全教員複数回授業提案及び当日授業研の継続

○家庭学習の在り方及び読書活動の充実については、学校で子ども達への指導を行うのはもちろんであるが、家庭の協力が不可欠である。家庭で問題意識を感じておられるところもあるが、家庭まかせで改善を望むのは難しいので、積極的に各種調査結果や研究結果を基に保護者への啓蒙を行っていきたい。特にゲームや携帯電話(スマホ)に関する様々な問題は相知町との三校連携で、また、地域力も活用して解決を図りたい。＝相知町教育講演会のテーマに設定。保護者啓蒙の学校便りや図書便り、学力向上便り等の発行。保護者参加型のワークショップの開催。

○市民性を育む教育については、まずは、教職員の理解の温度差を年度初めの講話にて解消したい。1～6年生までの継続的な取組で育むために、開発的生徒指導の視点から学級目標や学級の約束を自分たちで決めたり、児童会活動を活性化させたり、学校行事を児童参画で進めたりしていくなど、場と機会の保障が第一である。＝委員会の活性化。より教育的な価値の大きい行事に焦点化を図る。通例となっている行事のスクラップ。

●は共通評価項目のうち必須項目、○は独自評価項目